

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700117-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム楓は車椅子となっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人の心落ち着く癒される五感で想い、感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には住宅は少ないが、目前には緑の樹々や田畑が拡がり、穏やかに暮らせる環境である。法人の企業理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」を全職員に周知し、利用者が日々、笑顔で過ごせるよう支援に取り組んでいる。職員は、利用者の残存機能を活かせるよう、ホームの畑で季節の野菜や花作りを一緒に行ったり、育てた芋を皆で掘り、おやつや食事に取り入れるなど、楽しみにつなげている。管理者は、地域の要望でもある2ユニット目の稼働に向けて、職員の資質向上を図ると共に、人員確保については、運営推進会議で意見交換をしながら、実現を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	職員は、新任時の研修で理念について学んでいる。目につきやすい場所に理念を掲げ、業務日報の上部にも文言の記述がある。職員と利用者がひとつの大家族のように、笑顔で暮らせるよう、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事に参加をさせて頂き、交流の機会を多く設けております。	地域の文化祭には、利用者の作品を出展している。出前講座では、地域住民に介護保険制度について、分かりやすく説明したり、事業所の取り組み等を報告している。保育園児が遠足時に立ち寄ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、研修の資料や教科書等を設置している事や、運営推進会議等で認知症についての質問があった場合は、説明をさせて頂いております。また、地域ケア会議への参加も実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活をお伝えし、地域の方々の要望、ご意見をお聞きしたのち、サービスの向上に活かしていけるよう努めています。	今年度は、予定回数を実施することはできなかったが、状況を見ながら、感染防止対策をした上で、地域代表、家族、民生委員、行政等が参加して開催している。事業報告、ヒヤリハットや事故報告、今後の予定等について意見交換を行っている。現在、1ユニットのみの稼働であるが、2ユニット目の稼働に向けて、進捗状況を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者で相談を行っています。また定期的に市役所に伺い情報交換を行い、協力関係が築けるように努めています。	市担当者から、介護保険の動向、地域高齢者の現状報告等、情報を得ている。また、困難事例を相談し助言を得ながら、協力関係の構築に努めている。行政から配信されてくる新型コロナ関連情報を確認し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員身体拘束について周知しております。止むを得ず必要になった場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催しますが、解除出来るよう随時モニタリング、担当者会議等を行い身体拘束解除を目指します。運営推進会議で身体拘束防止委員会も行っております。	身体拘束廃止委員会は、運営推進会議の中で行っている。年2回、全職員が身体拘束等の適正化についての研修を受講し、スピーチロックを含めて、拘束の弊害について正しく学び、身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の資料を作成し、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。2か月に1度運営推進会議内で廃止委員会を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族に施設見学を行っていただき、入居時に契約について十分な説明、不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、入居者様に対する要望を確認後、内容を職員間で共有し、入居者の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、家族や入居者の意見を頂けるように努めております。	現在、新型コロナウイルス感染防止対策として、家族の面会を中止しているが、状況を見て解除も行っている。毎月、利用者の写真を中心に、暮らしぶりのわかるニュースレターを送付し、電話や手紙等で家族の思いを聞いている。また、家族からの要望で、LINEのビデオ通話での面会を支援し、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月日程を決め、定例会議を実施している。定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映できるように努めています。	代表でもある管理者は、今も、職員と共に現場に入り、職員の声に耳を傾けながら、理念に沿ったグループホームの運営に取り組んでいる。職員もまた、管理者に気兼ねすることなく意見や提案を示すことができ、個々にモチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。また、介護マニュアルを作成する事で質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、交流をさせていただき、意見交換できる機会を作り、外部との繋がりを持つ他、お互い向上出来るような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前、施設見学や事前面接時に、ご本人に面談を行い、要望等を確認し少しでも安心して入居できるように努めさせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前、施設見学や事前面接時に、ご家族との面談を行い、要望等を確認し少しでも安心して入居できるように努めさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前にご本人やご家族と面談し、要望を確認する事で、その時の状況にあったサービスを提供をさせていただき、希望に沿った支援ができるよに心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を少なくとも月に一度は行う中で、ご本人の様子等を知っていただき、共にご本人を支えていけるような関係作りに努めています。月に1度ニュースレターを作成し家族に送付しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会、外出、行事への参加を依頼し、今までのご家族様との関係が途切れないような支援に努めさせていただいております。	契約時に、家族には出来る限り月に1回の来訪を依頼していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況に応じて、面会中止及び解除を行っている。家族の希望で、窓越しの面会やLINEのビデオ通話等、工夫しながら支援している。また、電話やメール、手紙等で家族に繋ぎ、利用者が孤独にならないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援に心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は相談や支援が行えるように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映しけるように努めています。	入居前のアセスメントを参考に、個々の状態を把握し、本人の思いや意向を把握している。入浴支援等の個別支援の際には、コミュニケーションを図りながら、さりげなく利用者の本音を引き出し、本人本位の支援と希望の実現に向けて支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談の中でご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じ生活ができるよ家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談の中でご本人の以前の暮らし、心身状態の把握に努め施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でのご本人、ご家族の意見、要望を聴かせていただき反映し、介護計画の作成するように努めています。	介護計画作成時には、家族の面会時に意見や要望を聞いたり、電話や手紙で意向を確認している。サービス担当者会議では、介護記録をもとに、医師の意見を参考に関係者で話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成し、見直しも行っている。	現在は、コロナ禍であることから、家族がサービス担当者会議に参加する事が難しい状況である。収束した折には、日程調整を行いながら、家族参加での介護計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼、終礼または業務日報等に記入。職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に、課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源の把握し出来る限り利用させていただきご本人の意向に添えるよう努めさせております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添い支援や月に2回の往診の手配等、ご家族の希望を大切にし、納得がえられたかかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。	契約時にかかりつけ医について説明し、家族が選択している。現在は、全員が協力医を選択し、月2回の往診を受け、家族には利用者の健康状態を詳細に報告している。急変時には、医師、看護師と連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知りえた情報を看護職と情報共有を行い相談し入居者に適切な受診や看護を受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、早期な情報提供を行い、受診が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。また、その状況に応じてかかりつけ医の協力のもと、他施設や医療機関への転居をお願いしております。	契約時に、重度化や終末期の指針について説明し、本人・家族の同意を得ている。利用者の状態変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合い、家族の意向を再確認しながら方針を共有している。家族の思いに寄り添いながら、看取りの希望も受け入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署の立ち入り検査)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また防災訓練に地域の方に参加していただき、協力が得られるような体制作りに努めています。	火災訓練を年2回、消防署立会いのもとで実施し、通報、避難誘導、器具の取り扱いなど詳細な取り組みを実施している。近隣との連携にも努め、地域の防災訓練にも参加をしている。備蓄品の点検を定期的に行っている。	今後の状況を見ながら、運営推進会議構成メンバーにも訓練参加を呼びかけ、会議と訓練の同日開催で実施するなど、各種災害に応じた利用者の避難状況や対応方法を共に確認できる工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格の尊重、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。	職員は、日々の支援の中で、利用者と馴れ合いになることのないよう心がけ、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。排泄や入浴支援時には、特に羞恥心やプライバシーを損なわないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴しご本人様からの自己決定ができるよう支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様の一人ひとりのペースや生活リズムを大切にし、支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聞き、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割や、食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくように心がけ毎日にハリのある生活を送っていただけるよう支援をさせていただいております。	利用者の農作業経験を活かしながら、敷地内の畑で野菜を育てている。収穫したサツマイモを食材に加えたり、おやつにして屋外で楽しみながら食べている。季節の行事食や、利用者が希望する寿司を出張サービスで利用するなど、食べる楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や体重の変化を把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご本人の希望の飲み物を伺い提供させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また口腔ケアが出来る限りご本人で行えるよう支援をさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように支援をさせていただいております。	利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援している。職員は、安易に排泄用品に頼ることなく、排泄の自立支援を目指し、介助に努めている。夜間のみ、ポータブルトイレを利用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日の体操や運動や医師との連携による服薬調整を行い、便秘への個々に応じた予防と対策に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいております。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望や状況に合わせて柔軟に対応している。自分のペースで個浴を楽しむ人、介助者とコミュニケーションを楽しみながら入浴したい人など、希望に沿って支援している。機械浴の設置もあり、安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせてそれぞれに合った生活が送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、朝礼にて周知徹底し介護士全員に症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、毎日楽しくご本人のペースに合った生活ができるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等外出、外泊ができるよう支援させていただいております。	以前は、利用者の希望を聞き、喫茶店、買い物、ドライブなどに出掛けたり、地域の行事にも積極的に参加していた。コロナ禍の今は、不定期ではあるが、感染対策をした上でドライブに行ったり、職員と一緒に外気浴を兼ねて、野菜や花作りを楽しみながら、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭に関しては施設での管理としています。個人で少しの現金をお持ちの方もみえ買い物などの外出時に自分で支払いをして頂くこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話が出来る環境があるため、遠方の家族や知人と顔を見ながらの会話が楽しめます。また、手紙のやり取りに関しましても、ご本人やご家族のご意見に合わせて支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的となっており外の光を感じられるように工夫しております。庭園には楓の木や花壇があり、一年を通して、四季を感じて頂ける工夫しております。	バリアフリーとなっている共用スペースには、明るい日差しが入り、天井も高く開放感がある。福祉用具が必要な利用者も、安全に移動が出来る。食卓テーブルやソファ、椅子等が複数あり、利用者は好きな場所で過ごすことが出来る。共同作品や庭に咲いた季節の花を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人ひとりが過ごしやすい場所が確保できるようテーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、生活環境に変化があっても、混乱を防ぎ、ご本人が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	利用者が自分の部屋を認識しやすいよう、入口の扉横に自分で作った飾りを付けている。居室には、電動ベッドが設置され、寝具はリース契約の定期交換があり、常に清潔である。使い慣れた家具や好みの小物、家族の写真を飾り、落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意思表出に対し、出来る事を理解して頂き、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人が自立心をいただいていたくなるような生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		